

将来都市像について

■第5次日進市総合計画の将来都市像

第5次日進市総合計画

第2編 基本構想

第1章 将来都市像

2
基本
構想

本市は、名古屋市と豊田市の間に位置する恵まれた地理的条件から、高度経済成長期以降、緑豊かな新しい住宅都市として発展してきました。

今日の活力やにぎわいを持続的に発展させていくためには、本市に住みたい、住んでよかった、いつまでも住み続けたいと思えるような真の豊かさと幸せ、安心が実感できるまちづくりを進めていく必要があります。

そのためには、豊かな自然と調和した魅力あふれる住環境都市をめざしていくとともに、これまで以上に市民参加を進め、市民・NPO・企業・大学・行政等が連携することにより、様々な課題への対応が可能となるよう市民自治力と行政経営力を向上させていくことが重要です。

以上の考え方を踏まえ、また、「自治基本条例」に定める基本理念を将来目標とする中で、本市の将来都市像を次のように設定します。

将来都市像

いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市

“いつまでも”・・・今のまちの活力が持続するように思いを込めています。

“暮らしやすい”・・・安全・安心で、利便性が高いまちを表しています。

“みどりの”・・・本市の魅力の一つである、豊かな自然を表しています。

“住環境都市”・・・本市の特徴である“住みよい環境のまち”を表しています。

■ これまでの総合計画の将来都市像一覧

| 策定年度 | 計画期間 | 将来都市像 | 部門 | 重点プロジェクト |
|--------------|-------------|-------------------------|---|--|
| 第1次 S50年度 | S50年度～S60年度 | 住みよさと働きよさが調和した、発展的な5万都市 | (1) 快適な生活環境を築くための施策 (2) 町に豊かさをもたらすための施策 (3) 創造的な町民と生きた地域社会づくりのための施策 (4) 町民のくらしと安全を守るための施策 (5) 計画実現のために | |
| 第2次 S58年度 | S59年度～S65年度 | 喜びと誇りある豊かで住みよい発展的なまち | (1) 都市基盤整備 (2) 生活環境整備 (3) 教育文化の振興 (4) 福祉・保障・保健衛生の充実 (5) 産業の振興 (6) 行財政の運営 | |
| 第3次 H2年度 | H3年度～H12年度 | 緑の中の多機能都市 | (1) 総合的な交通体系の整備 (2) 機能的なまちの形成 (3) 暮らしやすいまちの形成 (4) 頭脳交流都市の形成 (5) 自由時間都市の形成 (6) 互いに助け合う心のかよったまちの形成 (7) 世界と手をつなぐ平和なまちの形成 (8) 「ころのふるさと日進」の創生 | |
| 第4次 H12年度 | H13年度～H22年度 | ひと・みどり・ふれあいがつくる高環境生活都市 | (1) 健康で幸せあふれる暮らしを築く (2) 心あふれ、ふれあいのある暮らしを育む (3) 自然と調和し、心地よい暮らしの場を整える (4) 快適な暮らしをつくる (5) 豊かな暮らしを支える | |
| 第5次 H22年度 | H23年度～H32年度 | いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市 | (1) 子育て・健康長寿を支えるまちづくり (2) 安全・安心で、自然と共生した暮らしの実現 (3) 快適で利便性の高い持続可能な都市づくり (4) 暮らしを支える産業の振興 (5) 次代を担う人を育み、生涯学び続けられる環境づくり (6) 市民自治力と行政経営力の向上 | ① 充実した子育て環境づくりプロジェクト ② 健康長寿社会形成プロジェクト ③ 安全・安心な暮らしづくりプロジェクト ④ にぎわいのある中心核形成プロジェクト ⑤ 住居地の魅力向上プロジェクト |
| 第6次 R2年度 | R3年度～R13年度 | ????? | ????? | ????? |

日進市の将来都市像の提案

(2019.8.4 開催 策定市民ワークショップより)

| | 将来都市像 | 盛り込みたいと思ったキーワード | 備考 (補足) |
|---|--|---|--|
| 1 | 私たちの話し合いとふれあいので安全と幸せなまち日進 | 幸せ／私たちがふれあい／安全／話し合い | － |
| 2 | 健康で緑あふれる心豊かに支え合う街 | はぐくむみどり＝緑の管理／おだやか／支え合い・ふれ合い／暮らしやすい | ○これからの時代は、必要以上の便利さやモノを求めない時代ではない。 ○「支え合う」という言葉には、不便さをも楽しんでもしまふ心のゆとりや穏やかな気持ち、自己犠牲（＝利己ではなく、利他）の気持ちが大切であるという思いを盛り込んでいる。 |
| 3 | 世界とつながる自然とIT日進 自然と人が集まるワクワクドキドキ出合いのまち日進 | 自然と人が集まる／野外イベントといえは結婚式といえは出合いのまち日進／ワクワク、ドキドキ／自然とIT／世界とつながる／起業／持続的にクリエイティブな／創造的／リラックスタウン／空気がうまい／明るい伝統をつくる／伝統・電灯があるまち | － |
| 4 | 共に暮らせる緑豊かなまち | 子育てしやすい／文化／生き物（鳥）が住む緑のまち／若年層の活発な活動／地域交流 | 共に…世代・地域をこえた交流暮らせる…バリアフリーのまち緑…環境豊かなまち…文化活動（音楽・スポーツ等） |
| 5 | 自信の持てるまち～日進～ 人・自然・芸術・文化を育むまちへ！ | 自然を守るまちづくり／芸術文化都市／異世代交流／人にやさしいまち／自信の持てるまち | 自然豊かというまちの良さを活かし、さらに芸術、文化を育てる都市を目指します。また、若い人、老人の異世代との交流を活発にすることにより、人に優しい都市を目指します。そのことによって、私たちは日進に住んでいて良かったという自信を創ることが出来ます。 |

将来都市像の提案（令和元年7月12日開催 第8回総合計画策定職員ワーキンググループ資料）

| 連番 | 将来都市像 | 備考 |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 遷移するみどりと緑のまち | 平成から令和に元号が変化したことや、IT技術の進歩によって社会が大きく変わっていく中で変化に適応して移り変わることもありつつ、みどりや人と人との繋がりがなくなったものについてはこれまでと変わらず大切にしていってほしいという希望をまとめました。 |
| 2 | 人が創り出すみどりと発展するまち | 他市町が、人口減少や高齢化が続く中、日進市は人口増加・子供数増加・健康長寿・緑豊かなど、ポジティブな面が残り続けていることが魅力だと思います。そして市民が受動的ではなく主体的に行動できるまちになってほしいと思います、この都市像にしました。 |
| 3 | 守りたいまち にぎわいあふれる 緑豊かな日進市 | 日進市の子育て世代や学生が多いこと、市民活動が活発である長所を「にぎわい」とし、また都市近郊にありながらも緑が多く残っている日進市の長所を市民の人が「守りたいまち」と思えるように愛着を持つことができる日進市になればと思います。 |
| 4 | だれもが 生き活き、にぎわいとみどりが絶えないまち | 子どもから高齢者、それぞれ多様な環境下のひとでも活き活きと暮らせ、新しいつながりがからうまれる都市の発展と、昔からあるみどりと共存できるまちを。 |
| 5 | みどり・にぎわいが見えるまち | 日進市は、東部丘陵を始めとした豊かな緑が多く残されていたり、市民活動が活発であったりといった特徴がある。その特徴が、市民の間で意識して共有され、かつ周辺市町村からも見える（ブランド化に繋がる）ようにする必要性を感じたため。 |
| 6 | みどり魅せる場所で楽しむ人々 | 「楽しい」「好き」という私的だけれど、とても能動的な思いで日進市に人が寄り集まる。その結果としてまちがにぎわい、ブランドが育まれ、人を惹きつけるハイブランドなまちになって欲しいと考えました。まず、みどりは近隣自治体との差別化材料としてブランドイメージの柱としたい。特に、「ただ「ある」だけではなく、まちづくりに「楽しむ」ことができる「魅力」であることを表せればと思っています。また、「行政視点」ではなく、「市民視点」の言葉を選び、市民により直感的に伝わる未来像になればと考えました。「まち」「にぎわい」「環境」という言葉は少し日常から離れた印象があったので、「場所」「楽しい」「みどり」という「自分の生活の中のこと」と思いやすい言葉に置き換えました。最後に、「人が自分たちで創ってこそ、いつまでも続く良いまち」の思いから、「人々」の言葉で結びました。 |
| 7 | 暮らしやすさとにぎわいの緑のまち | 「暮らしやすさ」と「にぎわい」は、たたき台における7つのテーマに広く共通するキーワードだと思いい、このようにまとめました。 |
| 8 | 今と未来を人であつなく、緑あふれる住宅都市 | 現在住んでいる人がいつまでも住み続けたいと感じ、他方、他自治体の住民が日進市で暮らしたいと感じるような都市を目指す、そのために押し出す日進市の魅力は人とのつながり、住宅環境である、という意味を込めました。 |
| 9 | みどり溢れる「わ」のまち | これまで大事にしてきた環境にも配慮は続けていくため、「みどり溢れる」とした。 「魅力的なまち→人が集まる→店舗、住環境の充実→魅力的なまち→・・・」 まちづくりが必要な理由を一言で表すならば、「好循環」を続けていく市を目指していると考えたため。また、「わ」とひとがなにした理由は、集まった人同士をつなぐという意味もこめて「わ」とした。 |